



バングラーデシュの街

私たちにあまり馴染みのない南アジアの国、
バングラーデシュを紹介します。

vol.3



【朝の風景】

バングラーデシュの首都ダッカは、汗と埃と喧騒が渦巻く大都市です。早朝6時ともなれば街の至る所からコーランが鳴り響き、野菜を満載したリヤカーを引っ張る男たちの声で賑い始めます。そしてホテルの窓から感じるそのような街の熱気に私はこの上なく魅了されています。日本では朝寝坊の私もさっさと身支度を整え、ホテル前のまだ薄暗い朝靄が立ち込めるベンチに座りながら熱く甘ったるいチャイを飲むことがダッカでの私の朝の日課になっています。バングラーデシュ人はとてもフレンドリーで皆が「アッサラームアライクム、ボンドウー（親愛なる友よ、元気かい?）」と声を掛け

通りすぎて行きます。「チャイナチャイナー」とストリートチルドレンが近づいてくることも珍しくありません。「アミ、シヤパニー」私はどこにしようが日本人である事を主張します。そのため結局彼らの格好の餌食となってしまうのですが、日本円にしてわずか100円もあれば彼らの空腹を満たすことができると思うと、まっいいか!と思うてしまいます。施しに異論を唱える人も多いですが・・・いいですよね? そうこうしているうちに空が白み、気が付けばホテルの前は買い物客やリキシャーでごった返しています。この国はまだまだ未成熟で日々不便な事だらけですが(日本の100均はやっぱり凄い!)それでも私はこの街の熱気や人々の笑顔に魅了されてしまうのです。(つづく)



ホテル前の様子



ストリートチルドレンの
写真はイメージです。

※2013年3月筆者撮影

鶴田 素子さん

八代市のローズマリー紅茶店オーナー。50歳で大学院に再入学し、
開発経済学を専攻。途上国の貧困削減のためフェアトレードを推進する。

ご感想お待ちしております!

info@uki-pre.net